令和２年度末自己評価書

令和3年２月　愛南町立城辺小学校

【評価基準】
Ａ：目標を達成　　Ｂ：８割以上達成
Ｃ：６割以上達成　　Ｄ：６割未満

重点目標		目　標	評価者	目標値 肯定90%以上		判定	考察(◆)と改善方策(◇)
1	社会総がかりで取り組む教育	1 CSの研究と実践による学校づくりを行う。	教職員	100	A	A	◆今年度はコロナのため評価が低くなるのは致し方ない。しかし、教職員・保護者・地域関係者の肯定率が高い。それぞれの立場で連携・協働していく心得ができており、実践できている。これは、ＣＳ４年目となり、これまでの積み重ねがあるからだと考える。 ◇保護者・地域関係者が学校の応援団として具体的にどんなことをすればよいのかを学校側が示す。コロナ禍で見通しが立たないことが多く、各種行事が中止・内容変更となり保護者・地域関係者に参加していただく機会が少なくなったが、学校・保護者・地域関係者が同じ歩調で進める「地域連携カリキュラム」の再構築を行い、浸透させる。
			児　童				
			保護者	91	A		
			地域関係者	94	A		
		2 地域の人的・物的環境を活用する。	教職員	100	A	A	◆コロナ禍のため評価が低くなるのは致し方ない。今年度は、地域連携カリキュラムを作成し、学校・保護者・地域関係者が連携・協働して児童を育成するようにした。見守り隊や読み聞かせのボランティアの方々には、コロナ感染防止対策を講じながら活動していただいた。また、制限の中で地域の方々に協力を得て、校外学習や体験活動等を実践することができた。 ◇保護者・地域関係者が学校の応援団として具体的にどんなことをすればよいのかを学校側が示すことが大切である。そのために、領域ごと（学習・清掃・行事等）に活用できる人材や施設・環境について整理し、まとめていく。
			児　童				
			保護者	100	A		
			地域関係者	100	A		
学校運営協議会委員の所見		○城辺小学校においては、学校と地域が連携し、協働できる体制が構築できていると感じる。地域住民として、万全の協力をするので、学校からの具体的な提案・指示等を待っている。今年度は、地域住民との交流事業（ペタンク、餅つき大会、しめ縄教室等）を中止にしたが、英断だったと思う。今後も「児童の安全を第一に」学校運営をしてほしい。地域住民は、いつでも臨機応変に対応する。 ○コロナ禍でありながら、城辺小学校が一生懸命に取り組んでいる姿は、十分に評価できる。11月に行った学校運営協議会では、「コロナの感染予防に関する研修会」ができ、共通理解・共通実践につながるものでよかった。					
学校の対応		○コロナの影響で、中止や延期・変更の行事が多くあり、学校の様子を広く発信することができなかったことを反省し、今後は、学校の教育活動の様子を発信する機会を検討していく。児童の活動について見える化を図る。 ○学校から具体的に地域人材や物的環境の活用等についての協力をお願いする。見守り隊・読み聞かせボランティア・学習支援ボランティア・学校環境整備ボランティアなど、学校運営協議会を通じて呼び掛けていく。					
2	一人一人を見つめ、育てる生徒指導の徹底と健全育成の推進	3 「いじめは絶対に許さない、見逃さない」楽しい学校づくりに努める。	教職員	100	A	A	◆教職員・児童・保護者・地域関係者全てで高い肯定率である。しかし、「学校が楽しい」という質問に「当てはまらない」と回答している児童や保護者がいることを忘れてはならない。保護者の立場から見ると、問題を抱えている児童がいるのではないか。 ◇保護者の意見を吸い上げる機会を持ち、信頼関係の構築に努める。 ◇児童が気軽に話せる、相談できる雰囲気づくりに努める。また、高いアンテナを張り、ちょっとしたサインを見逃さない教職員の資質向上を目指して、校内での研修の充実を図る。
			児　童	99	A		
			保護者	98	A		
			地域関係者	100	A		
		4 「積小為大・凡事徹底」と規範意識の醸成を図る。	教職員	100	A	A	◆決まりきった挨拶（朝の校長や児童会役員、教室の教師などへ）はできているが、地域での挨拶ができていない。 ◆今年度は、教員の登校指導ができなかったため、地域での挨拶指導が十分にできなかった。 ◇挨拶をはじめ、靴をそろえることや返事など基本的な生活習慣について、城辺小学校が目指していることを分かりやすく児童に話し、「実践しなければならない」「実践するのは当たり前」である雰囲気を持たせる。教師が粘り強く挨拶や会釈を実践するなど、手本となる場面をつくり、その気持ち良さや大切さをみんなで共感する。
			児　童	97	A		
			保護者	93	A		
			地域関係者	94	A		
学校運営協議会委員の所見		○いじめに関しては、あるのかないのか地域では分からないのが現状である。難しい問題ではあるが、評価は高い。学校が保護者とともに子どもを育てようと呼び掛けるなど、引き続き「いじめを絶対に許さない、見逃さない」をモットーに学校づくりをお願いしたい。 ○「あいさつをしなさい」「靴をそろえなさい」と言うことばかりでなく、大人が手本を示していくことが大切である。規範意識は、学校だけでなく家庭でも育てるように学校の基本方針を家庭に周知・浸透するように努力してほしい。					
学校の対応		○目指す学校像・児童像を学校・保護者・地域が共有し、児童の健全育成に努めていく。そのために、学校教育目標の具現化を図り、分かりやすく学校便りや学年便り・ホームページ等で発信する。また、「地域連携マニュアル」を見直し、年度当初に学校・保護者・地域で共通理解を図る。 ○「当たり前のことが当たり前にできること」「努力を積み重ねること」など、児童に分かりやすく説明するだけでなく大人が手本を示すことを念頭に置いて指導する。					

【評価基準】
Ａ：目標を達成　　Ｂ：８割以上達成
Ｃ：６割以上達成　　Ｄ：６割未満

重点目標		目　標	評価者	目標値 肯定90%以上		判定	考察(◆)と改善方策(◇)
3	確かな学力、豊かな心、健やかな体を育てる教育の推進	5 授業力の向上（主体的・対話的で深い学び、個に応じた指導）を図る。	教職員	100	A	A	◆教職員・児童・保護者・地域関係者全てで高い肯定率である。今年度は、授業公開が減り、保護者や地域関係者の方々には、評価しづらかったかもしれない。城辺小学校への期待値も含まれていると考える。 ◆２学期から研究主題に沿った部会研・全校研を実施し、研究協議を重ねたり研修通信で情報提供したりすることで教職員の共通理解を深めることができた。 ◇主体的・対話的で深い学びができるよう、コロナ禍での配慮をし、研究テーマである対話的な学びの研究推進に向けて、話合いをする場面を工夫しながら取り組んでいきたい。 ◇GIGAスクールに向けて、一人一台のPC端末を使った学習の進め方の研修を深めたい。
			児　童	96	A		
			保護者	100	A		
			地域関係者	100	A		
		6 家庭学習の習慣化に努める。	教職員	100	A	A	◆教職員・保護者が90%以上の肯定率だが、児童は、84%と低い。教師や保護者と児童との評価に差がある理由について考える必要がある。 ◆家庭学習の「時間」の達成ができていないと考える児童が多いのではないだろうか。また、各学年の目標とする時間を保護者に周知できていないことも考えられる。 ◇家庭学習の目標の時間を保護者・児童に再度周知する。と同時に宿題が終わったら、目安の時間まで自主学習をするように勧める。そのためにも自主学習の手引きなどを使って指導する。 ◇GIGAスクールに向けて、宿題の内容や提示の仕方などの研究を進める。
			児　童	84	B		
			保護者	94	A		
			地域関係者				
		6 家庭読書の習慣化に努める。	教職員	100	A	B	◆教職員が100%の肯定率に対して、児童は83%、保護者は78%となっている。教師が読書を勧めても児童や保護者には浸透していないのが現状である。保護者については、家庭で読書をしている子どもの様子を見ないということであろう。 ◇家庭で読書する機会を増やすために親子読書等、親子で読書をする機会を、学校・学級だより等で呼び掛ける。 ◇家庭の協力を得るために、校内での読書活動の推進や読み聞かせの様子などをホームページを通じて発信するなどの啓発を行う。
			児　童	83	B		
			保護者	78	C		
			地域関係者				
		7 道徳教育の充実と自他のよさを認め合う集団づくりに努める。	教職員	100	A	A	◆教職員・児童・保護者全てで高い肯定率である。高い評価となっている背景には、道徳を「特別な教科」として指導するようになって３年が経ち、学校だけでなく、家庭や地域に浸透してきたことや、「道徳教育」を通じて一人一人のよさや認め合う集団づくりができている結果だと考える。 ◇引き続き、道徳教育の推進に努める。そのために各学年の実態に応じて、学期ごとに道徳教育の指導方針・目標を設定し、具体的な手立てや対応を考えて実践し、評価し、改善していくPDCAサイクルの確立を図る。
			児　童	96	A		
			保護者	100	A		
			地域関係者				
		8 自己の体力の向上・健康の保持増進に取り組む態度を育成する。	教職員	100	A	A	◆教職員・児童は90%以上の肯定率に対し、保護者は86%の肯定率である。 ◆体力の向上については２極化している。また、コロナ禍の制限の中でゲームやパソコンを使う機会が増え、家庭での生活習慣（早寝・早起き）に問題があると感じている保護者がいるのではないかと考える。 ◇インターネットに関する調査から、ゲーム等によるパソコンの利用時間が非常に長くなっている。家庭における利用についてのルールを守るために、各学級の実態に応じた指導を徹底する。また県教育委員会から提供されている「えひめっこ情報リテラシーアプリ」を活用する。 ◇生活習慣を整えるように、学級での指導内容等を学校・学級便りで家庭に啓発する。
			児　童	94	A		
			保護者	86	B		
			地域関係者				

学校運営協議会委員の所見	○子どものときに興味を持つとそのことに夢中になれると思う。児童一人一人の力を伸ばしてほしい。 ○家庭読書の評価が低いが、家庭での本の選定方法の一つに「御荘文化センター」「城の辺学習館」の図書室を利用するのもいいのではないか。いい本があるので紹介してほしい。 ○生活習慣の育成には、保護者の協力を得ることが必要である。スマホやゲーム等の使い方については、参観日等を利用して講話や学習をする機会を設けることも来年度計画してほしい。 ○コロナで体が動かせないのはかわいそうに思う。心も体も健康に育ってほしいと改めて感じる。
学校の対応	○授業力の向上を図る。そのために今年度の授業実践の成果と課題を洗い出し、来年度に向けて城辺小学校で取り組む授業実践の方向性について、職員で共通理解を図る。 ○学校で学んだこと・活動していることを家庭で生かすことができるように広報活動に努める。特に読書活動の推進については、よい本の薦め・親子読書の薦め（仮称）など保護者に確実に伝わるような方策を考え、実践する。 ○生活習慣に係る事項については、学校便りや保健便り等を通じて、保護者に協力を呼び掛ける。また、「ネット依存」等に関する内容で、参観日やＰＴＡ役員会を活用して親子学習会等を設ける。 ○コロナ禍における児童の心の変化を捉え、道徳科の授業を中心に豊かな心の育成に取り組む。また、授業における外部講師の活用や学校行事のねらいの実現を通じて「心の教育」の充実を図る。

【評価基準】
A：目標を達成　B：８割以上達成
C：６割以上達成　D：６割未満

重点目標		目　標	評価者	目標値 肯定90%以上		判定	考察(◆)と改善方策(◇)
4	地域と連携した安全教育の充実と安全・安心な教育環境の整備	9 系統的実践による危機回避能力・対応力の育成を図る。	教職員	100	A	A	◆教職員・児童・保護者・地域関係者全てで肯定率である。しかし、「命を守る」という点でいうと本項目に関しては、100%を目指すべきところであると考える。 ◇避難訓練等の機会を捉え、事前・事後指導の充実を図る。と同時に「命を守る」場面は、普段の生活のどんなところにあるのかを学年の実態に応じて指導し、学校生活で行っていることが家庭や地域の生活の中にも生きてくる（つながる）ことを理解させ、実践へつなげる。 ◇学校で行う避難訓練は、世の中の状況に対応したものになるように常に更新していく。
			児　童	96	A		
			保護者	99	A		
			地域関係者	100	A		
		10 家庭や地域、関係諸機関との連携・協力に努める。	教職員	100	A	A	◆今年度、コロナ感染症対応のためできることが限られている中、教職員・保護者・地域関係者全てが高い肯定率である。学校・学級便りやホームページによる発信を評価していただいていると考える。 ◇引き続き、学校・学級便りやホームページ等により保護者、地域関係者に発信することを心掛ける。また、「地域との連携カリキュラム」に基づいた指導を意識することで共通実践目標の実現に努める。
			児　童				
			保護者	96	A		
			地域関係者	100	A		
学校運営協議会委員の所見			○高い評価で安心している。今後は、城辺中学校と連携をし、合同避難訓練をすることも考えてはどうだろうか。地域とも連携できると思う。 ○南海地震に備えた訓練には、地域住民としてできるだけ参加・協力したい。 ○「命の大切さ」を知れば、周りの人を傷つける行動はなくなると思う。今後も、学校から保護者・地域に発信してほしい。				
学校の対応			○「自分の命は自分で守る」という理念の基、避難訓練や防災学習の継続実施を行うとともに、防災教育年間指導計画、防災マニュアル、危機管理マニュアル等の見直しを図る。また、児童の安全・安心を守るために校内外や通学路の危険箇所等の確認を常に行う。 ○地域を巻き込んだ防災学習会や防災訓練の実施に向けて、中学校との合同避難訓練を計画・実施できるように努める。				
5	人権・同和教育と特別支援教育の充実	11 差別の現実に学ぶ研修と実践に努める。	教職員	100	A	A	◆教職員・児童・保護者全てで高い肯定率である。コロナ禍で感染者に対する差別や誹謗中傷の現実を学ぶ機会を教職員や児童を対象に行った。その内容について学校・学級便りで保護者・地域関係者に発信したことがこの結果につながっていると考える。 ◇今後も研修に努め、人権・同和教育指導計画を基にしながら差別の解消につながる意欲や技能、態度を持った児童の育成に努める。また、参観日等で人権・同和教育に関する内容を授業公開し、学校・保護者・地域で連携・協働していくようにする。
			児　童	98	A		
			保護者	100	A		
			地域関係者				
		12 児童一人一人の教育的ニーズを把握した指導・支援に努める。	教職員	100	A	A	◆全体的に高い肯定率であるが、教職員とそれ以外との意識に差がある。また、児童アンケートの中で「先生に相談できる」という項目が90%を下回っている。 ◇懇談会や学校運営協議会等を利用して保護者や地域関係者が望む「児童一人一人の教育的ニーズ」の把握に努め、指導・支援に役立てていく。 ◇定期的な生活アンケートや教育相談を活用しながら、普段から「先生に相談できる」雰囲気づくりに努める。また、学校として「いつでも、だれにでも」相談できる体制が整っていることを児童にも保護者にも具体的に周知していく。
			児　童	88	B		
			保護者	98	A		
			地域関係者	93	A		
学校運営協議会委員の所見			○コロナ禍で「差別はダメだ」と分かっていてもしてしまう（考えてしまう）ことを痛感している。報道や周りからの情報等で自分自身を見つめ直すきっかけとなっている。「思い込み」を覆すことができない自分がいた。何事も自分のこととして、学び続ける（考える）ことが、大切である。 ○児童一人一人の教育的ニーズに取り組まれていることがよく分かる。ただし、児童評価の低いところが気になる。改善方策を実施し、目標達成できることを望む。				
学校の対応			○今年度は、コロナ禍で参加ができなかった研修会が多い。研修会・勉強会への参加を呼び掛け、教職員の自己研鑽の場を増やす。また、研修職員会を通じて、差別の現実に学ぶとともに、児童に還元する。児童と共に考える活動を授業の中に取り入れる。 ○児童一人一人の教育的ニーズに対応するために、生徒指導主事や特別支援教育コーディネーターを中心に、全教員で児童に寄り添った教育実践を行う。そのために保護者や関係機関との連携を強化する。				

<table>
<tr><td colspan="6">【評価基準】
A：目標を達成　B：８割以上達成
C：６割以上達成　D：６割未満</td><td rowspan="2">考察(◆)と改善方策(◇)</td></tr>
<tr><td colspan="2">重点目標</td><td>目　標</td><td>評価者</td><td>目標値
肯定90%以上</td><td>判定</td></tr>
<tr><td rowspan="8">6</td><td rowspan="4">教職員の資質能力の向上</td><td rowspan="4">13
組織マネジメントを生かした研修の充実に努める。</td><td>教職員</td><td>100</td><td>A</td><td rowspan="4">A</td><td rowspan="4">◆教職員・保護者・地域関係者全てで高い肯定率である。
◆コロナ禍で１学期は研究授業ができなかったが、２学期から工夫・改善しながら研修の充実が図られた。現在の教育課題に対する研修会の実施や研修便りによる情報提供により、教職員が同じ方向に向かって進んでいる。
◇引き続き、組織マネジメントを生かした研修の充実に努める。城辺小学校の教育目標を実現するために学校・家庭・地域が連携・協働していく体制の確立にさらに努めていく。PDCAサイクルを生かし、学校の実情を分かりやすく情報発信していく。</td></tr>
<tr><td>児　童</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>保護者</td><td>98</td><td>A</td></tr>
<tr><td>地域
関係者</td><td>100</td><td>A</td></tr>
<tr><td rowspan="4">14
教員育成指標に基づく、個人目標の設定とＰＤＣＡサイクルによる自己研鑽に努める。</td><td>教職員</td><td>100</td><td>A</td><td rowspan="4">A</td><td rowspan="4">◆教職員・保護者・地域関係者全て100％の肯定率である。高い評価の裏には、学校経営方針を受け、教職員が児童のために、「何が一番大切か」「何ができるか」「努力できることは何か」を考え実践できていることがある。今年度は、コロナ禍で学校へ来ていただくことが少なかった保護者や地域関係者の方々の城辺小学校への期待値もあるのではないか。
◇引き続き、教員育成指標に基づく、個人目標の設定とPDCAサイクルによる自己研鑽に努める。と同時に社会環境が急速に変化する中で、教育に関する情報収集に努め、「チーム城辺」として見通しを持って、共通実践できるように取り組んでいく。</td></tr>
<tr><td>児　童</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>保護者</td><td>100</td><td>A</td></tr>
<tr><td>地域
関係者</td><td>100</td><td>A</td></tr>
<tr><td colspan="3">学校運営協議会委員の所見</td><td colspan="4">○子育てが難しくなっている時代に先生方の取組は、すばらしいと思う。今後も継続してほしい。

○高い評価の裏付けは、城辺小学校教職員の資質能力が優れていることである。今後も自己研鑽に努め、質の高い学校経営をお願いしたい。</td></tr>
<tr><td colspan="3">学校の対応</td><td colspan="4">○教職員の長時間勤務や負担等が増さないように、教職員の資質能力の向上に努めていく。そのためにポイントを押さえた研修の在り方やＰＤＣＡサイクルを生かした研修の充実に努める。

○「個別最適化された学びの実現」のために城辺小学校でどのように取り組んでいくのか共通理解を図るとともに、年間指導計画の見直しや授業方法について研究、実践する。</td></tr>
</table>

＜今年度の学校運営協議会の様子＞